

KFA創立20周年を迎えて提唱する

新鮮生活文化づくりと

神戸ファッションキャンパス化を

★ハード開発の20年から、人の技術と心の生活ソフトへ。

◆創立20年のあゆみと今後

1972年11月28日に創立した、(協)神戸ファッションアソシエーションは、今年で20周年を迎えた。

現在、理事長の畑崎廣敏氏(㈱ワールド代表取締役社長)を中心に、出資金・1140万円(平成4年9月30日現在)、組合員数・46社(平成4年10月1日現在)、年商額・6679億円(平成3年7月末現在)を掲げ、組合員の相互扶助に基づき、組合員のために必要な共同事業を行ない、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつその経済的地位の向上をはかることを目的に活動を行なっている。

創立翌年に発表した「KFA8大行動目標」に基づいて、73年神戸市への「神戸ポर्टアイランド・ファッション街区計画報告書の提出、81年「ポर्टピア81」への出展、87年「KOBÉファッションパティ」の実施、89年「ワールドファッションフェア」の積極参加などファッション都市・神戸の街作りに貢献する活動を続けてきたが、本年11月、創立20周年を迎えるにあたり、ますます神戸をファッション都市として発展させるべく、今後10年の行動指針を次のようにまとめた。

◆スローガンは「交流と共生」

今までの、ハード先行の活動を発展させるため、これ

からはソフトの充実を第一に考えることとし、まず「交流と共生」を今後10年の活動テーマに掲げた。さらに具体的に、「新鮮生活文化(新鮮ライフスタイル)作りの提唱」、「神戸ファッションキャンパス化構想の提唱」を行動目標とした。

I 新鮮生活文化(新鮮ライフスタイル)作りの提唱

単に便利で近代的な暮らしというのではなく、①新鮮生活文化マスタープランの研究と実践②地域特性を生かしたヒューマンライクな街起こしの提唱③社会と環境との交流と共生④周辺生活文化産業との交流と共生⑤神戸ファッションフリーポर्ट構想の提唱を元に、真に心豊かな人間的満足感をもたらす生活環境作りをめざす。

II 神戸ファッションキャンパス化構想の提唱

ファッションに関するハード面の優位性に比べ、学術技術を含むソフト面での遅れの改善に着手、神戸全体をファッションキャンパス化して、①グローバルな人材交流②人材育成支援制度の充実と体系化③ファッション産業関係者が活動し、生活し易い環境作り④産官学共同の推進を図る。

KFAの過去、今日、未来を次の各氏に語ってもらった。



“リバテイ”を 大きなテーマに

立亀 長三（ナククトアトリ工代表
神戸芸術工科大学教授）

ファッションが「衣」にとどまらず、「食・住・遊」にまでわたっている今日では、神戸のように市街地のすぐそばに山と海があるということはファッション都市づくりにとって有利ですね。特に若い人の指向は「夏は海、冬はスキー」。長崎や鹿児島、函館などとなるとリゾート地が市街地から遠隔になります。まずロケーションから見て神戸はファッション都市の条件をもっています。次にファッションというのは、常識的な環境と物の考え方の上にしか育たないものなんです。モードは突飛なことを考える人の作品でもいいんですが、ファッションとなるとそうはいかない。やはり大衆にも関係がないとファッションじゃないんです。その意味でも神戸はファッション都市としての条件を備えています。

縦に短かく横に長い神戸の街が世界に乗り出してゆく為には海へ出てゆかないと仕方がない。そういう意味では海の玄関口として、この10月1日にオープンしたハー

バーランドは期待がもてます。世界の国からの船便がもつと出入りできるような街で、海からあがってすぐ神戸の匂いを感じられるところが必要ですね。そういう意味でもハーバーランドをより充実してもらいたいと思いますね。ただハーバーランドへ入って海岸沿いに中突堤へ行こうとすると、途中で塀があって通れないんです。人が歩けるような海岸沿いにしてほしいですね。ウォーキングしながら神戸の街を懐しむということが大事じゃないかな。ファッション都市・神戸は自由（リバテイ）ということが大きなテーマにならないといけないと思う。東縛があつてはファッション都市にキズがつく。そしてできるならば、横へ伸ばすことよりも縦に拡大することを考えてはどうでしょうか。トアロードや鯉川筋の再開発とか。東西の交通網は発達していますからね。

KFAについては、例えば海外から人を呼んで神戸を案内するということは一社一社ではなかなかできないですね。そういう大きな催しもKFAという団体でやるなら可能です。ファッション都市宣言から20年が経ったわけですが、KFAが国際的な面で新鮮な息吹を与えてくれるということはとても大きいですね。

それに加えて、KFA初代理事長でオールスタイル棟の川上勉会長がいつもおっしゃることなんですが「ポータ일랜드、六甲アイランドに続く「第三の島」をファッションに従事する人たちの理想郷として作る必要がある。」というお考えに私も大賛成です。企業だけでなく神戸の個々の人が新しいことにトライできる環境。市民の拠り所というものはもっと広げていっていいのではないかと思いますね。

最近ヨーロッパを歩いていても、バルセロナ五輪以降、アシックスの人氣が高い。KFAのメンバーとして嬉しいですね。やっぱり祭りっていうのはどンドンやらなくちゃね。オリンピックも一種の祭りですからね。



シンボルゾーンに 国際芸術文化 村を

川上 勉（K.F.A初代理事長
オールスタイル株式会社社長）

神戸のファッション都市という定義は他の町と違うんです。つまり、人間環境都市であって文化都市である。人間環境都市というのは、澄みきった空、美しい水、輝く太陽、溢れる緑のある人間のための町ですね。そして文化都市、センスに富んだ質の高い文化を、個性の香り高い美しい文化を生み育てていく町、そのような町をファッション都市と定義したわけです。これはK.F.A.がスタートして以来、提唱していることなのです。

昭和47年に、それまであった神戸洋秀会と神戸ブラウス・グループに加えて、神戸の新進気鋭や有名企業に集まってもらって新しい団体を作ることになったのです。なぜ作ろうとしたかという点、その頃開放経済が叫ばれ始めて、都市は特性や個性を持つ必要があると考えた。神戸の場合早くから外国に門戸を開いていたこともあって、エキゾティックな町であるし、だからファッション

都市を神戸の進路にしようと考えたわけです。また神戸を世界に誇るファッション都市に、国際的なファッション基地にしていこうということで、K.F.A.がスタートすることになったのです。

一方、今人類はより平和に自由に豊かにという方向へ歩んでいます。がその豊かにするための手段である物質文明の発展が、結果として地球を病ませ、病気にしていく状況。では私達はどうかすればいいのか、それは物量的無尽蔵による豊かさというのではなく、創造性を無尽蔵にということ、個性美を限りなく生み出すことによって豊かに、という方向へ大きく転換を計っていく必要がある。それには、技術と愛を創意工夫や知恵によって結び付けて、美を生み出す作業であるデザインの果たす役割が大きいのです。そのデザインの集積は文化です。その文化の方向をリードするものがファッション。そのファッションの究極は芸術の世界。K.F.A.は今後一段とグローバルな視野、長期的展望に立って大きく取り組み進んでいくことになるでしょう。

また、私達はアーバンリゾート都市づくりを大成功させなければならぬ。それには例えば、ファッション都市づくりにはそのシンボルゾーン、神殿の街ともいえる「ファッショントウン」の建設があった。これがファッション都市づくり成功の鍵だった。もしこれが無ければ今の躍動するファッション都市神戸があり得たであろうか。となると今神戸の目指すアーバンリゾート都市にはその神殿の街、シンボルゾーンとなる街が必要になるというわけです。これが出来ればアーバンリゾート都市づくりは大きく進展することになるでしょう。

ではその神殿の街、シンボルゾーンとなる街とは。それは「インターナショナルデザインシテイ」（国際芸術文化村）です。そこは世界からダイヤと輝く人や企業が集い、創造性を無尽蔵にということによって個性美を限りなく生み出して、人類の「豊かに」への願いの実現をリードしていく街になるのです。



“若い感性”で 前向きな行動を

木口 衛（K.F.A.前理事長
ワールド取締役会長）

神戸は“ファッション都市”という定義が根付くのが非常に早かった都市だといえます。“大きな城下町”日本の中で、明治以降に開かれた、新しい都市として、何でも受け入れることができたのでしょうか。又、港があるため、海外からの文化も多く入ってきて、ハイカラな土台づくりができていたともいえます。

川崎重工社長の砂野仁さんが商工会議所の会頭をされていた時、ヨーロッパへ視察旅行へ出かけて“ファッション都市神戸”のヒントを得られ、新年の記者会見で発表されました。その当時の神戸市長、宮崎さんが「大変神戸らしい」と喜ばれ、全面的にバックアップして下さいました。商工会議所からの提案が市長に通るところなどは、いかにも神戸、だと思えます。

ある時、宮崎前市長が、私と神戸地下街線の森本さんを相楽園へ呼ばれ、風呂敷の中に山のようにつまれた本を見せ、「ファッション」は、読めば読むほど、わから

なくなる」とおっしゃるのです。大変な読書家で、ファッションに関しても、色々な勉強をされていたことに、頭の下がる思いがしました。

このように、官民一体となって“ファッション都市神戸”を盛り立てることができたこと、そしてリーダーシップをとる人が大勢いたことが、今の神戸を創ったのだでしょう。我々のような業界は本当に助けられてきました。新しい市長になった今も、宮崎さんの意志を引き継いで、“ファッション都市神戸”を盛り立てていって欲しいと思います。

K.F.A.が創立した20年前、私も、他のメンバーも若かったから出来たということが沢山あります。今の若い方も、前向きに、若い感性を大切に、頑張ってください。パブルが崩壊した今、やりにくいことも多いでしょうが……。神戸は他の都市と比べても、ハード面で充実していると思います。ポートアイランドのファッショントアウンを始めとして、六甲アイランドのファッション・マーケット、ハーバーランドの再開発……。この20年の間、コンパクトではありますが、ファッション施設の整備は着々と進められて参りましたが、それらをどれだけでも活用するかが、これからの課題となるでしょうね。今、神戸に求められているものは、ソフトの充実なのです。K.F.Aも今後10年のスローガンを“交流と共生”とし、“新生活文化作り”“神戸ファッションキャンパス化構想”の2つを行動目標に掲げました。単に便利で近代的な暮らしというのではなく、真に心豊かな満足感を生む生活環境作り、又、人材育成のための環境作りを、若い力で取り組んでいただきたいものです。

神戸は最初に申し上げた通り、歴史の浅い都市です。それがメリットとなり、デメリットともなります。これからの一つ一つの積み重ねは、今までの活動よりもっと大切になっていくでしょうね。



KFAの未来、 神戸の明日

畑崎

廣敏

〈KFA理事長
神戸ワールド取締役社長〉

「神戸がうらやましい」という声を他都市の企業の方からお聞きします。というのも官民一体といいますが、神戸市や兵庫県や商工会議所と企業との間に独特の仲の良さがあり協力し合う関係ができています。この関係づくりにはKFA初代理事長である川上氏の努力が見逃せません。20年前にKFAが発足するときの川上氏のしっかりした基本的な考え方と情熱が、先見性と行動力のある行政機関を動かす力となったわけです。

川上氏と2代目理事長である木口氏を中心にしたこれまでの20年間は、ハード作りの時代であり、日本の中でファッション都市として神戸の位置づけを明確にした時期でした。それは基礎固めのひとつのステップであったと思います。

こうした流れの後を承け、KFAの今後10年の行動を考えますと、いろいろなハードがそろったわけですから、それらを有機的に上手く連結して活かしていく、「ユニ

バーサルジョイントの年」にしなければならぬと思っています。

これからはソフトの時代です。人が全てになります。だから人材の育成をしなければ本場のソフト化ははかれません。それにはクリエイター達にもっと神戸に集まり住み活動してもらえ、場を作るとともに、一般の皆さんにも魅力を感じてもらえる都市作りに重点を置くべきだと考えています。さらにファッションの意味がライフスタイル全般に及ぶほど大きく広がった今、KFAもアパレル業界ということにこだわらず、産業全般や、特に経済的な面で注目されているアジアなどの諸外国といった広い範囲の中で、KFAの今後のスローガンである「交流と共生」を深めていく必要があります。

KFAが点から始まり線になり面を作り立体を目指すと、いうことは同時に日本の中で認められる神戸になり、アジアの中で認められる神戸になり、世界で認められる神戸になろうという事です。そのためには、山と海に囲まれた恵まれた環境を生かしファッショナブルな人が住む街をつくる事です。そうすれば相乗効果で人が集まり、お互いに感化し合い、新しいファッションの創造に結び付くのではないのでしょうか。それを各地に伝えることよって世界に発信力のあるファッション都市神戸となる事でしょう。

今ではひとつのグループとして認められ、他の産業へ影響力を持つほどになったKFAですが、これからの10年は協同組合としてそれぞれの企業が、協力しつつ、「交流と共生」のスローガンの下、「新鮮生活文化（新鮮ライフスタイル）作り」と「神戸ファッションキャンパス化構想」の2つの行動目標を提唱し実践します。そして「日本ではファッションは神戸」と言われるような街づくりのための活動をしていきたいと思っています。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上 勉
神戸市中央区港島中町6-5-1
TEL (078) 303-3311



日本の神戸から
アジアへ向けて

株式会社
三浦幸衛
代表取締役社長



これからはアジアを中心とした東洋文明開化の時代と考えます。豊かさの質的向上の時代潮流の中で、ファッション進化都市神戸として、アジアファッション進化都市のネットワークを作り、定期的な交流を実施することやインターナショナルデザインシティの実現、ファッション文化のシンポジウムの開催、先端的なファッション活動の発表の場作り等、夢は広がります。弊社における商品創作は常にトキメキと斬新な感覚を発想の原点においており、西洋の形と東洋の心を融合進化させたファッション文化を発信する事を心がけています。

情報発信都市
・神戸

株式会社
松岡賢蔵
代表取締役



山と海に囲まれた、ファッション・センスの良い神戸の町が、ファッション都市としてさらに発展していくためには、情報の発信・受信基地にならなければならないと思います。ファッションに関わる世界中の人達が神戸を訪れた時、その期待に応えられるような、情報を受け入れる器であるハード面、またそれを育てるソフト面での充実が課題となるでしょう。それには創造性豊かな人材が必要です。当社でも、ブラウスを中心に世界へ発信できるような商品開発と、それを生み出す人材の育成に、一番力を注いでおります。

ファッションの
新しい定義を

株式会社
畑崎廣敏
代表取締役



「アーバンリゾートフェア」が来年の4月から始まりますが、この「アーバンリゾート」はイコール「ファッション」でもあるわけです。住み働き楽しみ憩う街、そこから生まれる心のゆとりや豊かさこそ「ファッション」の目指すものです。全ての機能が充足した快適な街にファッション性の高い人が集まれば、ファッション都市としての神戸も豊かになるでしょう。当社は大きい会社よりも強い会社になることを基本に、第二期黄金期へ向け、本業のアパレルの面からファッション都市作りに貢献していく所存であります。

個の時代における ファッション

オールスタイル
代表取締役

中田 美明



現在ファッションの世界で通じるためには、創造性、独創性、豊かな感性、香り高い個性に加え、デザイン力と世界の時流を読む先見性が必要となります。そうした人材を育てる意味でも、またファッション都市神戸の裾野を広げる意味においても、インターナショナルデザインシティ構想——世界的なクリエイターを呼び集め住み活動し発表する場を作る——を成功させなければなりません。弊社も個々人が精一杯個性を発揮し表現出来る場であるとともに、そこから生まれる個性美をファッションに還元していきます。

開花期を迎える KFA の今後

マドンナグループ
代表取締役会長

清水 善之



神戸は恵まれた環境に甘んじているのか、他都市へ向けてのPRが少ないように思います。今後、神戸が発信機能を持つファッションの中心都市となるために、K.F.A. はグループとしての力を尚一層高めることでしよう。弊社も K.F.A. 創設時から加わり、ファッション業界を認識させ、またファッションのひとつのイメージを生むという、一社では出来ないことをしてきました。現在の不況はあと1年程続くと思われませんが、「良いものさえ作れば売れる」ことを基本に置き、軽く着る時代に合わせた商品開発に力を入れております。

ハードの20年から ソフトの充実へ

株式会社
代表取締役社長

小田 俱義



山と海と坂道の町 Kobe。布引の水が流れるフラワーロードにイズムをスタートさせて11年目に“神戸ファッションアソシエーション。(K.F.A.)”が20周年を迎えました。K.F.A. は私たちのファッションメーカーの仲間であり、よきライバルでもあります。20周年の第1歩のスローガンは「交流と共生」が行動目標に選ばれました。そして新しい提唱は「新鮮生活文化づくり」と「神戸キャンパス構想」の提唱です。ハードの充実した20年から、新たにソフトの充実をめざし、交流と共生のある活力にみちた K.F.A. にと願っております。

KFA

神戸の香りが漂う
ファッション都市を
創造するKFA

kobe fashion association

— KFA 創立20周年 —



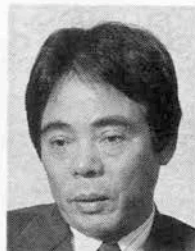
- | | | |
|----------|--------------|-----------|
| ㈱アシックス | 西三景神戸支店 | マドンナグループ |
| ㈱アネックス | ㈱ジェールベ | ミツワ織産業㈱ |
| ㈱アバン | ジャヴァグループ | ㈱ミヤギ |
| 飯田洋園 | ㈱シャルレ | メイワ㈱ |
| イズムグループ | ㈱ジュエルミ | ㈱モードヴィ |
| ㈱ヴァレン | ㈱ジュネス | ㈱モードオリオン |
| ㈱エウル | ㈱セザール | ㈱モードサン |
| エルミー園 | ㈱チクマ | ㈱モード・パピヨン |
| ㈱エンバイヤー | ㈱ドリーム神戸店 | ㈱モードリング |
| オールスタイル園 | ニコインターナショナル㈱ | ㈱モンテヴェスト |
| ㈱キムラタン | ㈱バーゴ | ㈱ヤナイ |
| ㈱キャラン神戸店 | ㈱パール | ㈱ユニバース |
| ㈱クオーレ | ㈱ファミリア | 吉岡㈱神戸店 |
| ㈱コーベモード | ㈱フォーム | ㈱リオ横山神戸店 |
| ㈱全期画会 | ㈱ボンニールンチェリー | ㈱ワールド |

(協) 神戸ファッションアソシエーション

KFA事務局 〒650 神戸市中央区港島中町6-1
神戸商工会議所会館6F ☎078-302-6671

新たな夢を抱いて
21世紀に向かう

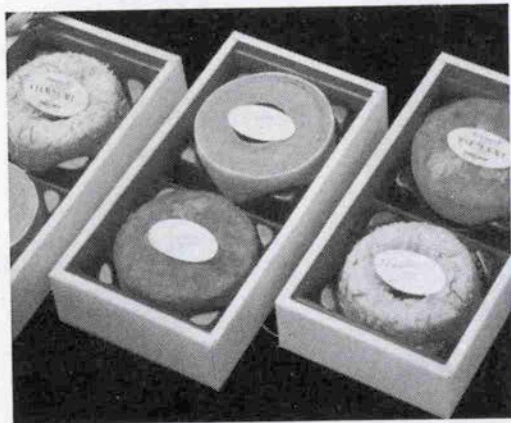
細川
数夫
代表取締役
㈱ジャヴァ



神戸がファッション都市を宣言し、K.F.A. が生れて20周年とは月日の過ぎるのが早いものです。初代会長の川上勉氏のリーダーシップのもとにスクラムを組んで神戸のファッション都市づくりに情熱をかたむけられたことは幸せです。ファッションタウンの町づくりや、ポートピア'81への出展、神戸ファッションパーティ、またワールドファッションフェアへの参加など積極的な姿勢で活動してきました。これを機に、また新しい飛躍を願って新たな構想のもとに21世紀の神戸のファッション都市づくりに邁進したいものです。

△以上、メッセーj到着順▽

お慶びを伝えるお二人のシルエット
ペアスタイルの贈りもの。



- ペアケーキ (A)
 <クラウンケーキ・バウムクーヘン>
 ペアケーキ (B)
 <バウムクーヘン・アーモンドケーキ>
 ペアケーキ (C)
 <クラウンケーキ・アーモンドケーキ>

いずれも 1,500 円



株式
会社

北 欧 の 銘 菓
2-ハイム・コンフェクト

本 社 〒651-21 神戸市西区北別府2-1-2
 TEL.(078)974-9756 FAX(078)974-9758
 大阪営業所 〒558 大阪市住吉区阿田町7丁目12-19
 TEL.(06)697-9435 FAX(06)697-4188

東 京 ・ 名 古 屋 ・ 大 阪 ・ 神 戸



SAMOTO CLINIC

佐 本
産 科

ママといっしょに



赤ちゃん: 杉本 まりん 眞鈴ちゃん (平成4年9月6日生)

ママ: 美和さん

「元気にすくすく育ってネ!」

★ 佐本産科・婦人科 ★
佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
 ☎078-575-1024(病室☎078-576-9639)
 市バス上沢4停南スク

● 駐車場完備 ●

小磯記念美術館

□ 秋晴れの六甲アイランドに開く □

“小磯良平の世界”展・清雅に



小磯記念美術館の玄関前で喜びの笹山市長のあいさつ。下は、小磯画伯の移築復元したアトリエと中庭

六甲おろしが吹き始めた六甲アイランド公園。11月2日10時。緑に樹立につつまれた待望の市立小磯記念美術館が、透明な秋空の下に、開館の式典が催された。

笹山幸俊市長は「六甲アイランドに文化的なシンボルが生れたことは非常に喜ばしい。来年のアーバンリゾートフェアに向けて、素晴らしい世界的な美術館の建物と作品群が、花を添えることになります」とあいさつ。続いて小田伍郎市会議長からもメッセージ。神戸混成合唱団の神戸の唄がさわやかに流れた後、小磯画伯のお嬢さん、沢村嘉子・嘉納邦子さん、また宮崎辰雄前市長など関係者が加わってテープカット、清々しくオープンした。

中央玄関を入るとガラス越しに、小磯画伯の御影の懐しい二階建のアトリエを移築復元した姿が、美しい中庭越しに見える。この周囲



右上はテープカット風景・右下は「自画像」を見る少女たち。沢村嘉子・嘉納邦子姉妹が父・小磯画伯を絵を（左上）。大作「働く人々」の感動的な画面

に回廊があり三つの展示室が取り囲んで、開館記念特別展「小磯良平の世界」が催されている。

10月号の取材の際、アトリエを見せられたが、北向きの窓からのさし込む陽光の中に、愛用のイーゼルやパレット、床に飛び散った絵の具の色の重なり、小磯画伯の作品づくりの匂いがたちこめて、思わず涙がこぼれた。「絵の虫」だと、神戸っ子の表紙絵で、毎月30年近く伺うたびに感じていた、あの姿が心に残っていて懐しかった。

11月3日から12月13日迄開かれる特別展は、昭和63年12月16日に亡くなられた後、ご遺族が寄贈された油彩91点を含む2096点の作品と蔵書を中心に、美術学校時に描いた「自画像」（1926年）をはじめ、1936年に制作して以来約半世紀ぶりに公開される「着物の女」（11月号表紙）や、1953年に制作された大作「働く人びと」は、下絵を集めて制作過程を見せるなど一味違った工夫がみられ見ごたえ充分。

芸術の秋に香り高い小磯記念美術館の開館は、神戸市民の心のオアシスになることだろう。（小泉）

★場所―新交通六甲アイランド線
アイランド北口駅下車すぐ★入場料／特別展・一般700円前売り（600円）大学生600円（500円）高校生500円（400円）小中学生250円（200円）シルバ
ー350円★午前11時～午後5時 ☎078
(857)5880

□小磯良平記念美術館開館に寄せて

父のアトリエ

嘉納 邦子

△小磯良平画伯次女▽



アトリエをとりこわす日が来た。それは平成二年二月の寒い日であった。

子供の頃、学校から帰って玄関を入るとアトリエの方からブーンと油絵具の匂いがする。心地よい匂いだ。父と一緒にアトリエの新ストーブを焚いた冬の日を思い出す。次は石炭になって、なかなか燃えつかず回扇でバタバタとストーブをおおいだものだ。最後には石油ストーブになり、つけ方の覚えられない父の

「邦子ーッ」と呼ぶ声がする。

秋になると応接間の窓から今年のぶどうの出来具合を眺めもしたっけ。庭のざくろの実が桃が静物台の上におかれる。そしてある時にはなんきん等が画材になり、二、三日後にはおかずとなつて食卓にのるのである。静物画に使う台の上の白い布のひだや形をくずすといけないので「お掃除が

出来ない」とブツブツ母がこぼす。筆をふく布は浴衣の古が一番いいと、それがこだわってとりよせるフランス製の最高級品の白の絵の具の横に並ぶおかしさ。吸いながら山となった灰皿、朝のコーヒーのみ残しの入ったカップ。何時ものアトリエの風景である。

父にとって思う通りに作った神戸の山本通りのアトリエを震災で失い、材料のない時代に建てたアトリエで精魂かたむけて描きつづけて四十数年。そのアトリエが神戸市の暖かいお力で立派な美術館と共に永く残る事になったのだ。住んでいた御影の家の真南に作られる美術館と小さなアトリエ、数々の作品、きっと父はテレくさそうにニコリと笑って

「困ったね」と言っているに違いない。色々な感慨をこめて移転の日を迎えたのだった。



「斉唱」(1941年)兵庫県立近代美術館蔵

□小磯記念美術館開館に寄せて

小磯さんの芸術

司馬遼太郎〈作家・芸術院会員〉

恥をいうと、若いころ、小磯さんの作品の骨として支えている稀有なデッサン力や、淡泊な色彩の展開に接していて、なにか物足りないもどかしさを感じたことがある。

中年になって、そのことが消えた。あの物足りなさは、じつをいうと、小磯芸術の側のことでではなく、自分自身の品性の足りなさの投影にすぎなかったことに気づいたのである。

小さな声で言いたいだが、単なるあくを芸術の核心的なものから出ているというふうには、ふとかんちがいしてしまうことが、人によってはあり得るのではないか。

その点、小磯さんの芸術には、卒業制作以後、あくというものがない。このことは、小磯さんの才能以前にそなわった人柄と育ちによるとしか思えない。この人は芸術家でありがちな嫉妬心が皆目なく、芸術にとってしばしば無用有害であるところの競争心は前世に置きわすれたようであり、絵を描くこと以外の人間関係はすべてひとへの思いやりで終始された。

また金銭への欲望もなく、栄達心もなく、ただ子供のころに絵が好きであったことのまま半生を終始された。神戸という街も、このような純粹培養されたような人柄にとっては、幸福な条件を与えつづけた。市民は小磯さんを敬愛し、小磯さんの制作環境を紊すことなく大切にしつづけた。

小磯芸術の気品の高さというものは、明治的の油彩の歴史ではその師の藤島武二とならぶもので、この一点については、おそらく百人が百人、異論のないところではないか。さらには、絵画が、個性表現のある段階に達したとき、結局は画品に帰してしまうということも、観賞する側の眼が老いるにつれて、いやというほどにわかってしまう平凡な結論なのである。小磯さんの芸術は、ご当人の人柄の淡泊さとはべつに、いやおうなく後世に残ってしまうにちがいない。後世に残るといふのはそういうものだろうということが、ちかごろ私などにもわかるようになってきた。

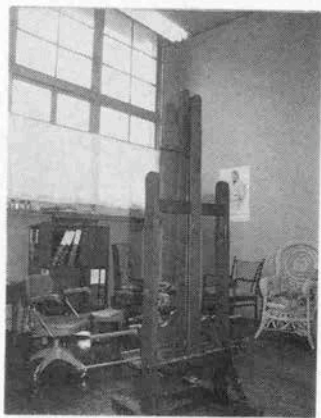
(昭和59年1月、梅田書局発行の「木」より転載させて頂きました)

□小磯良平記念美術館開館に寄せて

小磯先生のこと

石阪 春生

△画家・新制作美術▽



小磯先生が亡くなられて、あしかけ四年になります。年々、先生の大きさと、その画業のすばらしさを、身にしみて感じている日々です。いままらながら、いい先生をもっていてもっと学ぶべきであったと、自分の年令も忘れてくやんでいるこの頃です。

思えば先生に出合ったのは、私が大学を卒業して、しばらくして絵をかきはじめて二十六歳の時でした。それから三十余年のおつきあいがあったわけです。いつも寡黙でさわやかな先生と、軽薄で多弁な私でしたが、こと絵の話になるとしずかに、よくお話をして下さいました。

絵をかくということは、たとえば、ペン先がいつもインクでぬれていなければ、ペンはさびびつてしまう様に、つねに仕事をしていなければ頭も腕もさびびて行くんだよ…。

私がみた先生は、いつもいつも仕事をしておられる姿でした。こんな偉大な先生がつねに努力をしておられるのに、私みたいな非才なやからが怠けている。仕事の量と時間が全く足りないという

反省で、その情けなさにいつもさいなまれたものです。

私は三十七、八歳ごろから今までの抽象的な仕事から、自然と女を画きはじめました。これも今考えてみますと、若いころからあこがれていた小磯良平の婦人像が、私の体の中にあっただのではないかと思えます。何とか私なりの女を画きたい、夢中で女を画きはじめたのはそのころでした。

先生は、モデルをはじめ、あらゆる画面に出てくるものたちの選択は、非常にきびしい方だったように思います。或る日、アトリエにおたずねすると、先生は無然とひかえの応接間におられました。アトリエには一人のきれいなモデルさんが、ぼつんと一人で座っておりました。私は無礼にも先生に、なぜお画きにならないのですかと聞きました。その質問に、先生はやはり不愉快であったのか、じろりと私を見られ、しずかに

「あのモデルさんは君の好みかもしれないね。君が画いたらどうかね？」

私はしまった、いつものように変なことを云っ

紫 いつもカリンチョヨさん(杜)の
集中力とか芝居好きの部分は並み
外れていて、そのエネルギーブラ
ス退団という事にとでも太刀打ち
出来ない何かをお稽古場からずつ
と感じていました。お蘭は内蔵助
を殺そうとする役だからカリンチ
ヨさんを上回るエネルギーが必要
なのになかなか道が開けなくて；

柴田 何か開眼したって？

紫 芸者やお内儀さんという上っ
面だけで捉えていたものが、よう
やく気持ちが見えてきて、忠臣蔵
の男の世界にやっと入っていきそ
うです。通し稽古を見た時に、同

じ女性がやっているのを忘れてし
まうぐらいおもしろくて。女性が
やるから繊細で、男の先生が演出
するから大胆でという両面のおも
しろさがありますし、四十七士が
全員揃って何かをする場面は特に
ウツと胸が詰まりますね。

杜 男だけのハードボイルドな世
界って素敵じゃないですか。やつ
ているのが全部女性だというのが
おもしろいし、宝塚で黒燕尾の男
役が50人並ぶとみんなワアツと思
う。討ち入りの装束で並んだ時に

も同じ雰囲気がありますよね。

柴田 9分半のブローグは討ち

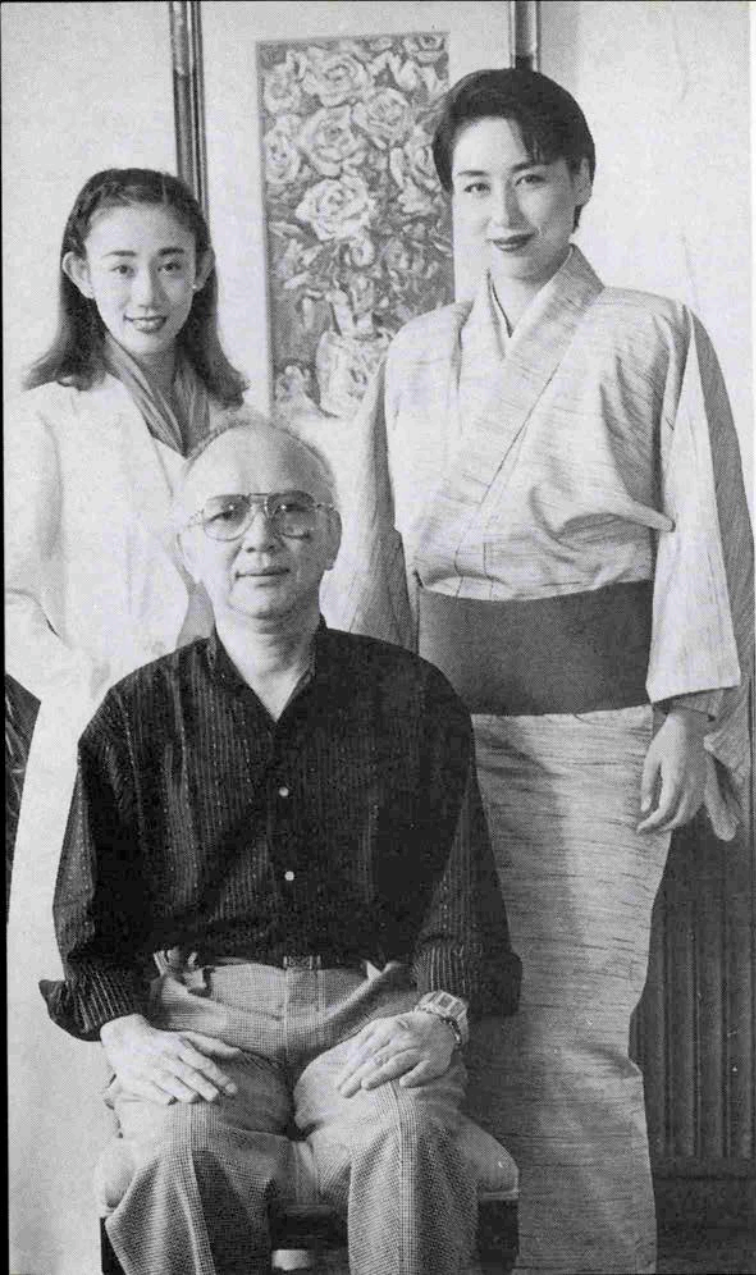
入りの凱旋から溯って全体のイメ
ージを象徴しています。歌舞伎で
は一力茶屋で有名な場面を榎木町
での遊びにしてあって、ここでは
カリンチョのゆったりとした演技
が見せ所になる。

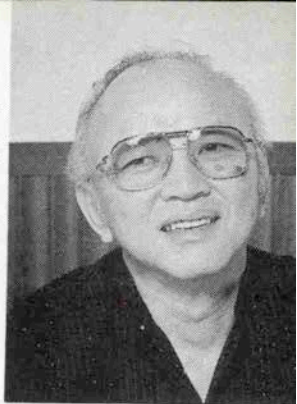
杜 喜んで遊んじやってゆったり

としてないかもしれない。(笑)

柴田 きれいな娘役がたくさんい
る宝塚ならではの場面になるね。

見せ場の討ち入りも、雪の積もつ
た広々とした抽象的な場所でのダ
ンスで表現している。忠臣蔵をよ
く知っていて宝塚がどう作るかと
いう興味で来られる人や、初めて





見る方、ファンの人にも宝塚らしさを感じてもらえて、なおかつストーリーを踏まえていく”とかなり欲張って作っている。見せ場が多くて切り捨てるのに苦労した。

★みんなの思いが重なり合う舞台
柴田 大劇場の最後と自分が飛び立つことはダブって大きいでしょう。今までの歴史を自分が閉じれるというスゴイ大役で、幸せと共にプレッシャーも大きいんですけど、私たち以上に先生方の思いの方が大きいんじゃないですか。

柴田 34年間勉強させてもらった道場であるし、戦った戦場だから思い入れは一杯ある。あの舞台、楽屋、客席にはいろんな人の足跡が残っているし、悔恨や涙も含めて愛着のある舞台をやりたかった作品で締められるのは座付作者として幸せです。

杜 なんて広い劇場だろうと思っていた頃に、先生に「スターは四方八方に光を放たなければいけない」と言われたのを覚えています。トモちゃん(巻)とトップで組んだ時に「センターが判らない」と聞かれて、初めて銀橋を歩いた時に

千鳥足だった事を思い出したりして。今ではセリ位置も銀橋のカーブも身体が覚えていて見なくても行けるし、最高に空気を伝えやすい劇場だと感じられることが14年間の財産ですね。だから身体の一部になっている劇場と共に去っていくのが良いと思っています。

紫 5cmずれただけでも一生懸命センターに戻ろうとしたりして、やはり場数が大事だと思います。来年10年を迎えますから本当の意味でしっかりしなければいけない時期に来ているんですが…。

杜 自分の居る場所がセンターだと思えばいい。

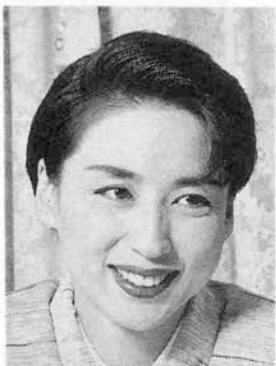
柴田 そう思えるようになるまでは時間がかかる。自分から光を放って隅々にまで到達できればそれがセンターだ。そう言ってもトモちゃんそれぞれらしい顔をしてるよ。紫 阿久里としての場面は少ないですが、一部と二部の頭の部分をしっかり演じたいと思っています。お蘭の方も内蔵助との最後の雪の場面まで、気持ちを大切にしていきたいです。



杜 私が理想としてきた組のカラーとか宝塚のあり方が、みんなに本当に下から湧き上がってくる力の一つのものを作る喜びを感じることもあったんです。今回のお芝居の中では特に誰かの見せ場ということではなくて、台詞がなくても四十七士が同じ方向を向いた瞬間とか、同じ事を感じて奮い立った。そういう瞬間に感動を覚えます。

いろいろな人がいてみんなが一斉に感じたなと思えるまで、やっぱり時間はかかったけれども、その瞬間には火の玉がワッと大きくなっていくようなすごいエネルギーがありますし。忠臣蔵はいろんな逸話があるから、一人一人が自分が主役だと思って生きて、その上で一致団結してこそ初めて成功するし、みんなの目を見ることがこれ程楽しい公演はないです。私自身は春にやった義経とは対照的な内蔵助を、中で思うことが深ければ深い程外に出ていくオーラが大きくなると思うので、そういうしみじみとした日本人の良さをしっかりと演じていきたいです。

(10・3レストランカラベルにて)



MESSAGE
from
TAKARAZUKA



STAGE

●「忠臣蔵」―花に散り雪に散り―

元禄十四年四月十四日、播州赤穂藩主・浅野内匠頭（一路真輝）が、江戸城松の廊下で高家筆頭吉良上野介（星原美紗緒）に刃傷に及んだ。しかし失敗し即日切腹、田村庭上の露と消えた。

報せを受けた内匠頭の正室、阿久里（紫とも）は剃髪し瑠泉院となる。赤穂城の筆頭家老、大石内蔵助（杜けあき）は城を明け渡し理不尽な幕府への抗議と、吉良上野介への復讐を決意する。



サヨナラ公演杜けあき

一年有余を同志たちの連絡、慰撫、引き締め心に砕きながら、自身はしきりに好機の到来を待っている

大石の前に、元禄十五年六月末、浅野大学名家再興願いの取り下げの報が届く。大石は江戸から来た磯貝十



二役を演じる、一路真輝と紫とも

郎左衛門（高嶺ふぶき）、堀部安兵衛（轟悠）たち、西の同志たちを京都円山に集

め、ついに吉良家討ち入りの檄を飛ばす。

上杉家家老、色部又四郎（古代みず希）は大石の心を讀みとり、お蘭（紫とも）に暗殺を命じる。が、お蘭は、お蘭に恋心を持ち寝返り仲間の刺客に倒される。

一方岡野金右衛門（一路真輝）は、大工の娘から吉良邸の絵図面を手に入れ、ついに元禄十五年十二月十五日早朝、万端整い四十七士は寝静まる吉良邸の門の前へと集結した。

この公演は、杜けあきのサヨナラ公演となる。11月23日3時の部、11月24日1時の部では、終演後続いてサヨナラショーを行なう。

★雪組宝塚大劇場公演「忠臣蔵」三部33場 作・演出柴田祐宏 特別出演 跡部 萬あきら他 10/9・11/24、S4100円、A2800円、B1800円、C800円

NEWS

●友の会へのお誘い

素敵な夢を贈り続ける宝塚の舞台。そのレディドリマーの世界への架け橋、宝塚友の会にあなたも入りませんか。A会員／一年 七千二百円で毎月「歌劇」を郵送。B会員／一年 七千二百円で毎月「宝塚グラフィック」を郵送。

普通会員／一年 二千三百円で毎月「宝塚だより」を郵送

その他、友の会行事への参加、座席予約などの特典もあります。

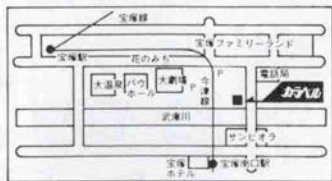
花の道にある友の会には宝塚の情報がいっぱい。気軽にお寄り下さい。

お問合わせ・申込みは宝塚友の会 〒665宝塚市栄町1の1の57 ☎07976801 郵便振替口座 神戸9-113286

宝塚歌劇 座席券セットのホテル

宝塚レディースイン

●二宿泊(朝食付) お一様 ¥5,700
<税別> 全室バス・TV付



阪急宝塚南口駅、徒歩3分・阪急宝塚駅、徒歩5分
〒665 宝塚市武庫川町47-1 ☎0797(81)0001